A small brown bird is perched on a branch of a flowering plant with pink buds. The background is a soft-focus green.

2024年度前学期  
静岡大学市民開放授業

募集要項・授業内容（シラバス）



静岡大学  
Shizuoka University

# Contents

前学期スケジュール	2
後学期スケジュール	3
<b>1 市民開放授業の概要</b>	4
市民開放授業とは 実施形態	
<b>2 受講までの流れ</b>	6
Step1 授業計画（シラバス）を手に入れる	
Step2 受講したい授業を決める	
Step3 興味のある授業を試聴し、受講科目を確定する	
Step4 必要書類を提出する	
Step5 受講料を納入する	
Step6 受講証の確認、学務情報システムの利用申請をする 受付・お問い合わせ先	
<b>3 受講に際して</b>	8
情報ネットワーク（学務情報システム・無線LAN）	
大学からの連絡（休講・教室変更・補講）	
通学方法	
学生生活	
その他	
<b>4 よくある質問Q&amp;A</b>	12
受講手続きについて	
受講料について	
授業について	
その他	
<b>5 図書館の利用について</b>	14
資料案内	
開館時間	
休館日	
利用にあたって	
サービス内容	
お問い合わせ先	
<b>6 キャンパス案内図</b>	17
静岡キャンパス	
浜松キャンパス	
<b>7 市民開放授業科目一覧</b>	19
表の見方	
シラバスの見方	
科目一覧	
授業計画（シラバス）一覧	
払込取扱票記入例	31
受講申込書	33
注意事項	34

2024年度 前学期 スケジュール

4 月			5 月			6 月			7 月			8 月		
日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事
1	月	前学期・前学期前半	水	1	土	前学期前半	1	月	前学期	1	月	1	木	
2	火		木	2	日	月曜授業	2	日		2	火	2	金	
3	水		金	3	月		3	月	7月↑ 試験期間	3	水	3	土	
4	木	入学式	土	4	火	憲法記念日	4	火	前学期前半終了 火6	4	木	4	日	
5	金		日	5	水	みどりの日	5	水	水7	5	金	5	月	
6	土		月	6	木	こどもの日	6	木	木7	6	土	6	火	
7	日		火	7	金	振替休日	7	金	金7	7	日	7	水	
8	月		水	8	土	月曜授業	8	土		8	月	8	木	
9	火		木	9	日		9	日		9	火	9	金	
10	水		金	10	月		10	月	8月	10	水	10	土	
11	木	試験期間	土	11	火		11	火	火7	11	木	11	日	山の日
12	金	試験期間	日	12	水		12	水	水8	12	金	12	月	振替休日
13	土		月	13	木		13	木	木8	13	土	13	火	夏季一斉休業
14	日		火	14	金		14	金	金8	14	日	14	水	夏季一斉休業
15	月		水	15	土		15	土		15	月	15	木	
16	火		木	16	日		16	日		16	火	16	金	
17	水		金	17	月		17	月	9月	17	水	17	土	
18	木		土	18	火		18	火	火8	18	木	18	日	
19	金		日	19	水		19	水	水9	19	金	19	月	
20	土	春のビッグフェスティバル(静岡)	月	20	木		20	木	木9	20	土	20	火	
21	日	春のビッグフェスティバル(静岡)	火	21	金		21	金	金9	21	日	21	水	
22	月		水	22	土		22	土		22	月	22	木	
23	火		木	23	日		23	日		23	火	23	金	
24	水	受講申込書提出期限	金	24	月		24	月	10月	24	水	24	土	
25	木		土	25	火		25	火	火9	25	木	25	日	
26	金		日	26	水		26	水	水10	26	金	26	月	
27	土		月	27	木		27	木	木10	27	土	27	火	
28	日		火	28	金		28	金	金10	28	日	28	水	
29	月	昭和の日	水	29	土		29	土		29	月	29	木	
30	火		木	30	日		30	日		30	火	30	金	
31	水		金	31	月		31	月		31	水	31	土	

●学期別の授業回数

前学期	14	14	14	14	14	14	14
後学期	14	14	14	14	14	14	14
通年							

市民開放授業受講生は期末試験に参加できませんが、教員の許可があれば参加することができます。  
 試験週に期末試験を受講する場合は、オンデマンド授業を含めて14回の開講となります。  
 一部の科目は「後学期前半」・「後学期後半」に分かれており、7回の開講(オンデマンド授業を含む場合もあります)となります。  
 「前学期後半」の試験期間及び受付期間は、別に設定していますので、注意してください。

☆ 学年暦  
 前学期 4月 1日～9月30日  
 後学期 10月 1日～3月31日

2024年度 後学期 スケジュール

2024年			2025年											
10月			11月			12月			1月			2月		
曜日	日	行事	曜日	日	行事	曜日	日	行事	曜日	日	行事	曜日	日	行事
火	1	試験期間	金	1	後学期・後学期前半 大学祭(朝間) 後学期後半 大学祭(朝間) 後学期後半 赤松金4	水	2	後学期後半 元旦	水	1	後学期後半	土	1	後学期後半
水	2	試験期間	土	2	大学祭(朝間) 後学期後半 文化の日 大学祭(朝間) 後学期後半	木	2	試験期間	木	2		日	2	
木	3	試験期間	日	3	文化の日 大学祭(朝間) 後学期後半 振替休日	火	3	火1	金	3		月	3	(後学期試験)後学期終了 月14 後学期後半終了 月7
金	4	試験期間	月	4	振替休日	水	4	水2	土	4		火	4	
土	5		火	5	火4	木	5	木2	日	5		水	5	
日	6		水	6	水5	金	6	金1	月	6	月4	木	6	
月	7		木	7	木5	土	7		火	7	火4	金	7	
火	8		金	8	大学祭(朝間) 後学期後半 赤松金4	日	8		水	8	水5	土	8	
水	9		土	9	テクノフエスタ・大学祭(赤松)	月	9	月1	木	9	木12	日	9	
木	10		日	10	テクノフエスタ・大学祭(赤松)	火	10	火2	金	10	金11	月	10	
金	11		月	11	月4	水	11	水3	土	11	土11	火	11	建国記念の日
土	12		火	12	火5	木	12	木3	日	12		水	12	
日	13		水	13	後学期前半終了 水6	金	13	金2	月	13	成人の日	木	13	
月	14		木	14	後学期前半終了 木6	土	14		火	14	火12	金	14	
火	15	受験申込書提出期限 月曜授業	金	15	金5	日	15		水	15	水13	土	15	
水	16		土	16		月	16	月2	木	16	木12	日	16	
木	17		日	17		火	17	火3	金	17	金12	月	17	
金	18		月	18	月5	水	18	水4	土	18	土11	火	18	
土	19		火	19	後学期前半終了 火6	木	19	木4	日	19		水	19	
日	20		水	20	水7	金	20	金3	月	20	月12	木	20	
月	21		木	21	木7	土	21		火	21	火13	金	21	
火	22		金	22	後学期前半終了 金6	日	22		水	22	補講(静岡・浜松)	土	22	
水	23		土	23	勤労感謝の日	月	23	月3	木	23	木13	日	23	天皇誕生日
木	24		日	24		火	24	火4	金	24	金13	月	24	振替休日
金	25		月	25	後学期前半終了 月6	水	25	水5	土	25	土11	火	25	
土	26		火	26	試験期間	木	26	木	日	26		水	26	
日	27		水	27	水8	金	27	金4	月	27	月13	木	27	
月	28		木	28	木8	土	28	土1	火	28	火14	金	28	
火	29		金	29	金7	日	29		水	29	水14	土	29	
水	30		土	30	試験機関	月	30		木	30	木14	火	30	
木	31		日	31		火	31		金	31	金14	水	31	

●学期別の授業回数

月	火	水	木	金
前学期	14	14	14	14
後学期	14	14	14	14
通年				

市民開放授業受講生は期末試験に参加できませんが、教員の許可があれば参加することができます。  
 試験週に期末試験を実施する場合は、オンデマンド授業を含めて14回の開講とします。  
 一部の科目は「後学期前半」「後学期後半」に分かれており、7回の開講(オンデマンド授業を含む場合があります)とします。  
 「後学期後半」の試験期間及び受付期間は、別に設定していますので、注意してください。

★ 学年暦

前学期 4月 1日～9月30日  
 後学期 10月 1日～9月31日

# 1 市民開放授業の概要

## 市民開放授業とは

### ■定義

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放するもので、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、本学と地域社会の連携をより一層深めていくことを目的としたものです。

### ■特長

- ◇高等教育レベルの高度で体系的、先進的な内容を受講することができます。
- ◇大学の正規の授業科目を開放することから、大学での授業を理解するだけの学力を有していることを前提としています。ただし、高等学校などの卒業証明書の提出は必要ありません。
- ◇大学の正規の授業科目を受講していただきますが、**単位の認定は行いません**。したがって、単位認定試験は行いません。また、**修了証明書等の発行も行いません**。

## 実施形態

### ■開放科目

◇21ページの「市民開放授業科目一覧」をご覧ください。

#### 注意

- ①市民開放授業科目一覧に掲載されていない科目は受講できません。
- ②夜間主コース、大学院は開放しません。

### ■開講期間・授業回数

前学期開講期間	2024年4月11日（木）～2024年7月31日（水） ※前学期（後半）は、2024年6月3日（月）～2024年7月31日（水）
---------	---

- ◇授業の回数は試聴期間の授業も含めて半期15回です。開講学期に「前半」または「後半」と記載がある授業の回数は、試聴期間の授業を含めて半期8回です。
- ◇市民開放授業では単位認定をしませんので、単位認定試験などの時間は、授業回数に含まれません。
- ◇教員の都合により休講になる場合があります。
- ◇**授業実施日については、あらかじめ決まっている休講日及び曜日を変更して実施する授業等がありますので、必ず前学期スケジュール（P2）を確認してください。**

## ■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 }	10:20 }	12:45 }	14:25 }	16:05 }
	10:10	11:50	14:15	15:55	17:35

## ■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

## ■募集人員

◇1科目につき若干名とします。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人員を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

## ■受講要件

◇本事業の趣旨を理解し、正規の学生と同等に取り組むことができる方であればどなたでも受講できます。学歴・資格は問いません。

## ■受講料

◇受講料は、市民開放授業科目一覧（P21）に記載されていますので、ご確認ください。

◇休講分の受講料は返金いたしません。

## ■テキスト

◇授業で使用する教科書等は、担当教員の指示に従って、受講生ご自身でご用意ください。教科書については生協書籍部で取り扱っていますので、市民開放授業の受講生である旨を伝え購入してください。

◇テキスト以外に講義資料をあらかじめ印刷しておくことが必要となる科目もあります（P8参照）。

※学務情報システムからダウンロードする資料は図書館のパソコンから印刷することができます（印刷代が必要です）。



## 2 受講までの流れ

### Step1 授業計画（シラバス）を手に入れる

◇授業計画（シラバス）の入手方法は以下のとおりです。

- ①葉書・電話・FAX・メールでの請求…市民開放授業担当までご連絡いただければ、折り返し必要書類をお送りします（連絡先は次ページ参照）。
- ②来学での請求…市民開放授業担当までお越しく下さい（場所はP17のキャンパス案内図参照）。
- ③インターネットからダウンロード…静岡大学市民開放授業のウェブサイト（[https://www.lc.shizuoka.ac.jp/class\\_list.html](https://www.lc.shizuoka.ac.jp/class_list.html)）より、必要書類をダウンロードしてください。

### Step2 受講したい授業を決める

◇募集要項と授業計画（シラバス）をよく読んで、受講したい授業を決めてください。

### Step3 興味のある授業を試聴し、受講科目を確定する

◇試聴とは、受講生が受講科目を決定する際に、授業の概要を確認していただくために設定しているものです。期間中の初回に限り、開放する授業科目の授業は、自由に試聴できます。事前申込不要、途中入退室も可能です。試聴期間内に受講科目を確定し、受講申込書に科目番号・受講科目名・教員氏名を記入の上、担当教員から承認印を貰ってください（受講手続きについては、P12のよくある質問Q&A参照）。  
※正規の授業の1回目を、市民開放授業受講生向けの試聴期間に設定しています。

試聴期間 2024年4月11日（木）～4月17日（水）  
※前学期（後半）は、2024年6月3日（月）～6月11日（火）

◇承認印がないと受講できません。受講料を振り込む前に必ず印またはサインを貰ってください。

### Step4 必要書類を提出する [提出期限 4月24日（水）]

◇下記書類を市民開放授業担当（静岡キャンパス）へ郵送または直接提出してください（提出先、受付時間等は次ページ参照）。

- ①受講申込書（P33、担当教員の承認印が押印済みのもの）  
※6科目以上受講する場合は、受講申込書をコピーし記入してください。
- ②運転免許証、保険証等の氏名、現住所を確認できる書類の写し  
※受講申込書裏面（P34）にあらかじめ貼付のこと。

受講申込期間 2024年4月11日（木）～4月24日（水）※締切日必着  
※前学期（後半）は、2024年6月3日（月）～6月18日（火）

◇浜松キャンパスには受付窓口がありませんのでご注意ください。

## Step5 受講料を納入する [払込期限 4月26日 (金)]

◇郵便局で、「払込取扱票」により受講料を振り込んでください。払込取扱票は、この募集要項の末尾にあります（記入例はP31）。

受講料払込期間 2024年4月11日（木）～4月26日（金）※払込期限厳守  
※前学期（後半）は、2024年6月3日（月）～6月20日（木）

◇現金での納入はできません。現金を直接お持ちいただいたり、書留等で送付いただいても納入手続きはできませんのでご注意ください。

◇授業で使用するテキスト代や授業に必要な資料印刷費、その他の費用は受講生の負担となり、受講料とは別となります。

◇休講等により担当教員の承認印が遅れる場合など、特別な事情で期限までに納入できない場合は、必ず市民開放授業担当までその旨ご連絡ください。

## Step6 受講証の確認、学務情報システムの利用申請をする

◇入金確認後、受講証が郵送されますので、手元に届き次第、確認してください。

◇受講証は、来学の際には必ず携帯してください。

◇申し込みされてから受講証が手元に届くまでの間は、担当教員に「受講証は発行手続き中である」旨を伝えて、受講してください。

◇受講する科目によっては学務情報システムを利用します（詳細はP8参照）。必要に応じて利用申請を行ってください。

## 受付・お問い合わせ先

### ■お問い合わせ

地域創造教育センター市民開放授業担当（静岡キャンパス事務局別館2階）  
☎054-238-4817 [平日9:30～12:30、13:30～16:00  
(4/11～4/24のみ 9:30～12:30、13:30～16:30)]  
e-mail : kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp  
(住所) 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

### ■浜松キャンパスでの授業（休講・補講・教室・授業内容）に関する問い合わせ

[授業実施期間中のみ]  
浜松教務課共通教育係（S-Port1階） ☎053-478-1006

※お問い合わせの前に、必ずP12～13の「よくある質問Q&A」をお読みください。



## 3 受講に際して

### 情報ネットワーク（学務情報システム・無線LAN）

#### ■学務情報システム(講義資料ダウンロード、課題提出等)

◇学務情報システムとは本学の学生がインターネット上で履修登録や成績参照をするためのもので、授業資料の配布や課題提出、アンケートなどもこのシステムを使って行います。授業によっては、担当教員から学務情報システムを利用して、授業の資料などを事前にダウンロードするよう指示される場合もあります。  
[URL] <https://gakujo.shizuoka.ac.jp/portal/>

◇学務情報システムの利用にはIDおよびパスワードが必要となり、受講申込とは別にID発行の申請が必要です。申請は、静岡キャンパスでは市民開放授業担当（事務局別館2階）、浜松キャンパスでは浜松教務課共通教育係（S-port1階）で受け付けます。

※IDは、静大IDとMicrosoft365 IDの2種類が発行されますが、システムログインにはMicrosoft365 IDを使用します。

※IDの発行まで一週間程度かかります。手続き中に限り、資料の印刷については前述の窓口で対応します。

※パソコンをお持ちでない方には、附属図書館に受講生も利用できるパソコンがあります（台数限定）。利用については附属図書館のカウンターにお申し込みください。ダウンロードした資料を印刷することもできます（有料）。

#### ■Google Classroomによるオンライン授業について

◇一部の科目で、Google Classroom（グーグルクラスルーム）を利用したオンライン授業を行います。受講には附属図書館設置のパソコンは使用できませんので、ご自身でインターネットに接続できるパソコン、タブレット、スマートフォン等をご用意ください。

※オンライン授業の受講にかかる通信料は自己負担となります。受講にはWi-Fiなどの十分な通信環境を整えてください。

※端末機器の使用や操作方法、インターネット通信機器の接続や使用等に関するサポートはできませんのでご了承ください。

◇Google Classroomによるオンライン授業に参加するには、webブラウザからGoogle Classroomにアクセスするか、Google Classroomアプリケーションをダウンロードしたうえで、静大非正規学生用の専用アカウントでログインする必要があります。対象科目を受講する方には、受講申込受付後に専用アカウントを発行し、通知します（個別に申請していただく必要はありません）。

※Google Classroomの使用マニュアルを静岡大学市民開放授業ウェブサイト（[https://www.lc.shizuoka.ac.jp/class\\_list.html](https://www.lc.shizuoka.ac.jp/class_list.html)）に掲載しておりますのでご参考ください。

#### ■キャンパス内での無線LAN接続について

◇市民開放授業受講生は静大eduroam（エデュローム）ゲスト用アカウントによる接続設定をすることで、キャンパス内で無線LANをご利用いただけます。無線LANの利用を希望する場合は受講申込書の該当箇所に○をつけて提出してください。受講申込受付後に、接続に必要なゲスト用アカウントとパスワードを発行し、通知書を送付します。

※静大eduroamゲスト用アカウントは半期で失効します（前学期に申請した場合の有効期限は9月30日まで、後学期の場合は3月31日までとなります）。

※ご利用の端末の無線性能や無線アクセスポイントまでの距離等により電波強度の強弱が生じ、通信速度に影響が生じますのでご了承ください。

## 大学からの連絡（休講・教室変更・補講）

### ■掲示板

◇休講情報は、静岡キャンパスでは共通教育B棟ピロティ電子掲示板、浜松キャンパスでは教養教育掲示板にある市民開放授業用の掲示板に掲示します（P17～18参照）。

※静岡キャンパス共通教育L棟掲示板には休講情報は掲示されませんのでご注意ください。

※急な休講がある場合、掲示板での対応が間に合わない場合がありますのでご了承ください。

◇休講情報は、携帯電話やパソコンからオンラインで確認することができます。

休講情報URL <https://gakujo.shizuoka.ac.jp/portal/class-cancel>

◇教室変更、補講の情報は、静岡キャンパスは共通教育L棟掲示板、浜松キャンパスは教養教育掲示板に掲示します（P17～18参照）。

◇現時点で教室が未定の授業は、教室決定後に掲示します。また、授業開始後も教室を変更することがありますので、必ず掲示板を確認するようにしてください。

### ■メール

◇大学からの連絡はメールで配信します。メールアドレスをお持ちの方は、必ず受講申込書に記入してください。過去にメールアドレスを記入していただいた方も、改めて記入するようにしてください。また、記入するメールアドレスは1つにしてください。

◇掲示板に掲示する内容の他、授業に関する連絡をメールで配信します（授業内容の補足、資料の準備の連絡等）。

◇携帯メールを記入される方は、大学からのメールが受信できるように設定をしてください（発信アドレス：[gakujo@adb.shizuoka.ac.jp](mailto:gakujo@adb.shizuoka.ac.jp)）。

◇メールアドレスの登録に時間がかかりますので、受講申込後約1週間はメール配信ができません。

◇電話による休講等の連絡は行っていません。

◇全ての休講連絡がメールで配信されるとは限りません。

### ■その他

◇自宅を出る前に天候不良等で授業が開講されるかどうか心配な場合は、教務課教務係（☎054-238-4327）へお問い合わせください。

## 通学方法

### ■自動車での通学

◇自動車での通学は、原則としてできません。本学教職員の駐車スペースも確保が難しい状況であり学内に十分な駐車スペースがないこと、学内の交通安全と教育・研究環境を確保する必要があることなどから、公共交通機関をご利用ください。これに違反したトラブルや事故が起きた場合、大学側では責任を負いかねますので、ご了承ください。

◇ただし、身体に障害があるなど特別な理由がある場合のみ、駐車許可証を発行します。駐車許可証の申請には、医師の診断書又は身体障害者手帳の提示が必要です。

◇近隣の駐車場の紹介・斡旋は行っていません。

### ■自転車・バイクでの通学

- ◇自転車・バイクでの通学は可能です。ただし、学内への乗り入れは禁止されていますので、必ず指定の駐輪場に置いてください。浜松キャンパスへ自転車、バイクで通学される方は、予め浜松学生支援課学生支援係窓口までご連絡ください（S-Port 1階）。
- ◇ただし、身体に障害があるなど特別な理由で学内の移動が困難な場合には、駐車許可証（バイクのみ。自転車は不要）を発行していますので、市民開放授業担当までご相談ください。

### ■学割の利用

- ◇通学定期券、通学用割引回数券、学生専用バスカードの購入など学割の利用はできません。購入の際に必要な「学校学生生徒旅客運賃割引証」、「通学証明書」または「在学証明書」等の発行ができないためです。

## 学生生活

### ■図書館の利用

- ◇受講生は、図書館をご利用いただけます。市民開放授業の受講生には、受講証とは別に図書館利用票を発行します（受講申込から数日かかります）。特に手続きは不要です。利用方法は「図書館の利用について」（P14～16）を参照してください。
- ◇開館日・時間等は、図書館のホームページ（<https://www.lib.shizuoka.ac.jp/>）でもご案内しています。

静岡キャンパス：静岡大学附属図書館静岡本館 ☎054-238-4479  
 浜松キャンパス：静岡大学附属図書館浜松分館 ☎053-478-1391

### ■生協の利用

- ◇受講生は、大学内の売店、食堂、生協を利用することができます。ただし、生協については、書籍・テキスト、CDなど、一部商品に組合員の割引価格が設定されています。組合員価格での購入には、組合員証の提示が必要となり、組合員証の交付には出資金等の手続きが必要です。組合員でない方には、定価販売となります。詳しくは、下記の「静岡大学生生活協同組合」まで直接お問い合わせください。
- ◇フードショップ銀杏2階の休憩スペースも利用できます。

静岡大学生生活協同組合静岡キャンパス ☎054-237-2712  
 静岡大学生生活協同組合浜松キャンパス ☎053-473-4627

### ■一時保育施設の利用（静岡キャンパスのみ）

- ◇受講生は、本学構内にある多目的保育施設「たけのこ」を有料で利用することができます。生後8週間を経過した乳児から小学6年生までの児童の保育が可能です。授乳や搾乳ができるシャワー・トイレ・湯沸し室があります。
- ◇ご利用の際は、原則として利用希望日の3日前までに利用申込書（下記ウェブサイトからダウンロード可能）を男女共同参画推進室に持参・メール・FAXにて提出してください。その他、詳細については、下記の「静岡大学男女共同参画推進室」まで直接お問い合わせください。

静岡大学男女共同参画推進室（サッカー・ラグビー場隣）  
 ☎054-238-3052・4346 FAX：054-238-3160  
 e-mail：takenoko@adb.shizuoka.ac.jp  
<https://www.shizuoka.ac.jp/sankaku/itijihoku.html>

## その他

### ■受講生の義務・注意

◇受講生は授業を受講するにあたって、授業担当教員及び本学関係者の指示に従うとともに、私語を交わしたり、騒音を発したり、その他授業を妨害するような行為をしてはいけません。

◇授業中は携帯電話の電源をお切りください。

◇**授業中、録音・撮影をしてはいけません。**

### ■受講の停止

◇受講生が、本学の秩序を乱したり受講生としてふさわしくない行為があった場合は、受講停止とすることもあります。

### ■損害賠償

◇受講生が故意または不注意により本学の施設、設備等を破損したときは、速やかに届け出るとともに、自己の責任においてこれを原状に回復し、またはその損害を賠償しなければなりません。

### ■連絡先の変更

◇連絡先に変更があった場合は、市民開放授業担当までご連絡をお願いします。

### ■受講生の呼び出し

◇受講生の呼び出しには対応できませんので、あらかじめご了承ください。

## 4 よくある質問 Q&A

### 受講手続きについて

Q1 受講資格は定められていますか？高等学校の卒業証明書などの提出は必要ですか？

(A) 大学の正規の授業科目を開放することから、大学での授業を理解するだけの学力を有していることを前提としていますが、特に受講資格は決めていません。また卒業証明書などの提出も必要ありません。本事業の趣旨をご理解いただき、正規の学生と同等に取り組むことができる方が受講してください。

Q2 希望する授業についていけるか心配です。具体的な難易度を教えてください。

(A) 難易度については、募集要項、授業計画（シラバス）に記載してありますのでそちらを参考にしてください。また試験期間中、開放する授業科目は自由に試験することができますので、期間内に各自でご判断ください。

Q3 受入可能人数が若干名となっていますが何名ですか？申込多数の場合の選考方法を教えてください。

(A) 受入人数や希望者多数の場合の選考方法については、担当教員に一任しておりますので、各授業によって異なります。希望する授業の担当教員に直接おたずねください。

Q4 試験するには事前の申し込みが必要ですか？

(A) 事前申込は不要です。開放する授業の科目は、自由に試験できます。また、試験期間中に限り、途中の入退室も可能です。

Q5 どうしても初回の授業に出席できません。承認印は貰えませんか？

(A) 試験期間内に受講した人が優先となりますが、授業によっては定員に達していない場合、承認されることもありますので、担当教員に直接事情を話して相談してください（2回目の授業の時、または授業計画（シラバス）に記入されているオフィスアワーを利用）。

Q6 初回の授業が休講でしたがどうしたらいいですか？書類の送付が申込期間内に間に合わないと受講できませんか？受講料は先に振込んだ方がいいですか？

(A) 初回の授業が休講の場合、次回の授業が1回目の授業になりますので、その時に承認印を貰ってください。その場合には手続きが遅れても構いません。受講料は、必ず承認印を貰ってからお振り込みください。ただし、書類の送付及び受講料の振り込みが遅れる場合は、必ず市民開放授業担当までその旨ご連絡ください（連絡先は下記参照）。

Q7 申込受付は郵送のみですか？

(A) 直接大学にお持ちいただいても結構です。受付場所は下記の通りです。なお、浜松キャンパスには受付窓口がありませんので、ご注意ください。授業計画（シラバス）も下記の場所で配布しています。

静岡大学地域創造教育センター市民開放授業担当（静岡キャンパス事務局別館2階）  
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836  
☎054-238-4817 [平日9:30～12:30、13:30～16:00]  
(4/11～4/24のみ 9:30～12:30、13:30～16:30)



## 受講料について

Q8 受講料にテキスト代は含まれますか。

- (A) 含まれません。授業に必要な図書・テキスト・資料のコピー代等は受講生の負担となります。指定された教科書は、生協書籍部で販売していますので、各自で購入してください（P10参照）。また、学務情報システムからダウンロードする資料は各自で印刷してください（P8参照）。

Q9 銀行振込や現金書留での支払いは可能ですか？直接現金を大学に持参してもいいですか？

- (A) お支払い方法は郵便振込のみです。大学に現金をお持ちいただいても納入手続きはできません。

Q10 振込受領証やそのコピーは送付しなくていいのですか？

- (A) 受講料の振込みは大学側で確認できますので、受領証やそのコピーの送付は不要です。受領証は、控えとして各自で保管してください。

## 授業について

Q11 レポートや課題の提出、単位認定試験は受けなければいけませんか？受けてはいませんか？

- (A) 市民開放授業は単位の認定を行いませんので、原則としてレポートの提出やテスト、単位認定試験受験の必要はありません。ただ、これは提出、受験してはいけないということではありませんので、担当教員と相談、了承の上でしたら問題ありません。ただし、その場合も単位の取得はできません。

Q12 授業計画（シラバス）の内容と、実際の授業内容や進度が違うのはどうしてですか？休講になった回はすべて補講が行われますか？

- (A) 授業計画（シラバス）は授業の目標や内容、スケジュール等の授業計画をまとめたものですので、各担当教員の判断により、実際の授業とは内容や進度がシラバスと異なる場合があります。また、授業の回数は試聴期間の授業を含めて半期15回となっていますが、休講があった場合は、補講等による代替措置が各授業担当教員の判断により講じられます。

Q13 授業を休む場合は連絡が必要ですか？

- (A) 特に必要ありません。

Q14 台風等の場合は休講になりますか？

- (A) 大型の台風等の場合、大学全体で休講になることがあります。大学のホームページに掲載されることもあります。天候不良で開講されるか心配な場合は、教務課教務係（☎054-238-4327）へお問い合わせください。

## その他

Q15 授業終了後、受講証は返却しなければいけませんか？

- (A) 返却の必要はありません。



## 5 図書館の利用について

静岡大学附属図書館は、静岡キャンパスの静岡本館、浜松キャンパスの浜松分館から構成され、そこには数多くの学習書や専門書、学術雑誌が所蔵されています。受講する科目についてさらに学習するため、あるいは生涯学習のため、この機会にぜひ図書館をご利用ください。図書館のホームページ (<https://www.lib.shizuoka.ac.jp/>) でもサービス内容をご覧ください。

開館時間やサービス内容は変更になる可能性があります。最新情報は、図書館ホームページでご確認ください。

### 資料案内

- ◇静岡大学附属図書館では、静岡本館に89万冊の図書と16,000タイトルの雑誌、浜松分館に30万冊の図書と4,400タイトルの雑誌を所蔵しています。その他にも、視聴覚資料、特別コレクション、マイクロ資料等があります。
- ◇これらの資料は図書館の閲覧室、書庫内にありますが、研究室に備え付けられているものもあります。

### 開館時間

※詳細は、図書館ホームページの開館カレンダーでご確認ください。

- ◇平日…9:00～20:00（試験対応期間は9:00～21:00、夏休み等の休業期間中は9:00～17:00）
- ◇土曜…10:00～17:00（試験対応期間は9:00～21:00）
- ※試験対応期間については日曜・祝日も9:00～21:00で開館します

### 休館日

- ◇日曜・祝日（試験対応期間を除く）、年末年始、3月の土曜、大学入学試験日、蔵書点検期間、その他臨時休館日（館内掲示、図書館ホームページなどでお知らせします）

### 利用にあたって

#### ■図書館利用票

- ◇必ず図書館利用票をご持参ください。入館・退館時に必要です。また、図書の貸出、ネットワーク使用の手続きの際にも必要です。
- ◇図書館利用票は、静岡本館、浜松分館の両方で使うことができます。

#### ■図書館利用票の受取方法

- ◇図書館利用票は市民開放授業受講申込後に図書館で発行します。受講する授業が開講されるキャンパスの図書館カウンターで、受講証等（※）を提示し受け取ってください。なお、図書館利用票の発行は、受講申込から数日かかりますので、ご了承ください。

（※）受講証、身分証明書（氏名、現住所が確認できる書類）、受講申込書の写しのいずれか。

- ◇静岡・浜松の両キャンパスで授業を受講される方は、原則として静岡本館で発行します。浜松分館で受け取りたい方は、事前に静岡本館までご連絡ください（☎054-238-4479）。

## サービス内容

◇平日17:00以降および休日の開館時は、窓口のサービス内容が縮小されますのでご注意ください。

事項	静岡キャンパス（静岡本館）	浜松キャンパス（浜松分館）
閲覧	館内3～5階の閲覧室にある図書・雑誌は自由に利用できます。利用後は元の位置に戻してください。	1～3階の開架図書・開架雑誌は自由に利用できます。利用後は元の位置に戻してください。
	書庫内資料を利用する場合は、学内所蔵検索（OPAC）で確認のうえ、「資料請求票」に記入し、サービスカウンターに申し込んでください。書庫内資料の出納時間は平日9:00～16:45です。土日祝日に来館して書庫内資料を利用されたい場合は、平日9:00～17:00に問い合わせ先へ連絡をお願いします。	書庫内資料を利用する場合は、学内所蔵検索（OPAC）で確認のうえ、「資料請求票」に記入し、カウンターに申し込んでください。書庫内資料の出納時間は平日9:00～12:30、13:30～17:00です。平日の夜間、土日祝日に来館して書庫内資料を利用されたい場合は、平日9:00～17:00に問い合わせ先へ連絡をお願いします。
	研究室備付となっている資料（OPACで所在が「本館」「分館」以外のもの）は利用できません。	
	図書館内配架資料であっても一部ご利用できないものがあります。	
貸出	4階・5階の開架図書および書庫内図書が対象となります。	1階・2階の開架図書、書庫内図書が対象となります。
	貸出を希望する図書と図書館利用票を持参してサービスカウンターで手続きをしてください。	貸出を希望する図書と図書館利用票を持参してカウンターで手続きをしてください。
	浜松分館所蔵の図書を取り寄せることができます。取り寄せのできる図書は、浜松分館の開架図書および書庫内図書です。サービスカウンターに申し込んでください。	静岡本館所蔵の図書を取り寄せることができます。取り寄せのできる図書は、静岡本館の開架図書および書庫内図書です。カウンターに申し込んでください。
	貸出期間の延長（手続日よりさらに2週間貸出可能）は予約がない場合に限り、1度だけ可能です。サービスカウンターに申し込んでください。	貸出期間の延長（手続日よりさらに2週間貸出可能）は予約がない場合に限り、1度だけ可能です。カウンターに申し込んでください。
	参考図書（辞書・事典・統計類等）や雑誌の貸出はできません。	
	貸出冊数は3冊まで、貸出期間は2週間です。	
返却	サービスカウンターに返却してください。	カウンターに返却してください。
	図書館閉館時は、正面玄関右脇の返却ポストに入れてください。	図書館閉館時は、正面玄関横のブックポストに入れてください。
	返却期限日を過ぎると、遅れた日数分だけ貸出が停止されますのでご注意ください。	

事項	静岡キャンパス（静岡本館）	浜松キャンパス（浜松分館）
館内コピー機の利用	コピー機は4階閲覧室に2台設置していません（1台はプリペイドカード、1台はコイン式）。	コピー機は1階閲覧室に1台（コイン式）と2階S-Port東側エリアに1台（プリペイドカード式）を設置しています。
	料金は、白黒は1枚10円、カラーは1枚50円です（図書館では両替をしませんので、小銭をご用意ください）。	
	複写する時は、著作権法の定めに基づき以下のことに注意してください。 ①図書館所蔵資料のみが対象です（自分のノート、レポート等は不可）。 ②「複写申込書」に記入してから複写してください。 ③1人1部、資料の一部を複写できます。雑誌の最新号は複写できません。	
レファレンスサービス	レファレンスカウンターでは、図書館の利用、資料の探し方などについての質問にお答えしています。	カウンターでは、図書館の利用、資料の探し方などについての質問にお答えしています。
	対応時間は、平日9:00～12:30、13:30～17:00（休日は対応なし）です。	
	本学図書館を通じて、県内公共図書館からの図書の取り寄せができます。他大学からの取り寄せはできません。	
利用者用パソコン	ネットワーク利用のためのノートパソコンの貸出を行っています。利用の際はサービスカウンターに申し込んでください。	1階カウンターに利用者用パソコンが設置してあります。学術情報検索にのみ利用できます。
		ネットワーク利用の際は、平日9:00～17:00にカウンターに申し出てください（学内所蔵資料の検索については、各フロアに検索専用のパソコンがあります）。
注意事項	携帯電話での通話、私語はご遠慮ください。貴重品は常に携帯してください。他の利用者の迷惑になるような行為は慎んでください。閲覧室では水筒もしくはペットボトル（いずれも中身は水またはお茶のみ）の使用ができます。	
	図書を亡失または汚損した場合は、弁償していただくことがあります。	

## お問い合わせ先

### ■静岡キャンパス

◇静岡大学附属図書館静岡本館 利用サービス係

☎054-238-4479 e-mail : lib-infsrv@adb.shizuoka.ac.jp

### ■浜松キャンパス

◇静岡大学附属図書館浜松分館 分館サービス係

☎053-478-1391 e-mail : libh-ill@adb.shizuoka.ac.jp

# 6 キャンパス案内図

## 静岡キャンパス



# 浜松キャンパス



# 7 市民開放授業科目一覧

## 表の見方

### ■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票にはこの番号を記入します。

### ■学部等

◇授業を実施している学部等を指します。

### ■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

### ■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共=共通教育棟、人=人文社会科学部棟、教=教育学部棟、理=理学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・工1～8=工学部1～8号館の略です。
- ※授業開始当初は、受講学生数等により教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

### ■受入可能人数

- ◇1科目につき若干名とします。
- ◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください（P12のよくある質問Q&A参照）。
- ◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人数を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。



## ■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

## シラバスの見方

### ■授業の目標、学習内容、授業計画

◇これらを参考に受講したい科目を探してください。

### ■受講要件

◇要件を満たしているかご確認ください。

### ■オフィスアワー

◇教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の場所で待機する時間のことです。会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・時間に教員と直接会うことができます。

### ■科目番号

◇市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号です。受講申込書や払込取扱票に記入する番号です。

科目一覧には2024年2月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学ウェブサイトでご覧いただけます。(https://www.lc.shizuoka.ac.jp/class\_list.html)

## 科目一覧

## 2024年度前学期 静岡大学市民開放授業科目一覧

## 〔静岡キャンパス〕

## 〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	Googleクラスルーム の使用の有無	受入可能 人数	難易度	受講料
1	全学	初修外国語(ドイツ語)入門 I	大菌 正彦	前学期	月5・6	人E101	無	若干名	A	9,700円
2	全学	生命科学	天野 豊己	前学期	月5・6	共D2	有	若干名	A	9,700円
3	全学	地球科学 I (基礎A)	北村 晃寿	前学期	木1・2	共B301	無	若干名	A	9,700円
4	教育学部	地球・宇宙システム	内山 秀樹	前学期(前半)	月5・6 (4・6・7月)	教B215	無	若干名	A	6,900円
5	理学部	生化学	天野 豊己	前学期	火1・2	理B212	有	若干名	B	9,700円

※ No.4は通常のスケジュールと異なりますので、詳細は担当教員に確認してください。

## 〔浜松キャンパス〕

## 〈前学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	Googleクラスルーム の使用の有無	受入可能 人数	難易度	講習料
6	全学	こころの深層	太田 裕一	前学期	金3・4	工1-31	無	若干名	A	9,700円
7	全学	生物と環境	戸田 三津夫	前学期	火1・2	工5-11	無	若干名	A	9,700円
8	全学	浜松市の交通と観光を考える	戸田 三津夫	前学期	金3・4	工2-21	無	若干名	A	9,700円
9	全学	工学基礎化学 I	植田 一正	前学期	木3・4	工8-11	無	若干名	A	9,700円

- A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)  
 B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)  
 C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)  
 ※演習の難易度は「D」になります。  
 D 専門的な知識が必要なため、履修登録にあたり担当教員と面談を行う。(大学3～4年次対象の授業)

## 授業計画（シラバス）一覧

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）入門 I (Basic German I)				
担当教員名	大菌 正彦 (OZONO Masahiko)		所属等	学術院人文社会科学領域	
			研究室	人文 A 棟 4 2 3	
分担教員名					
クラス	人 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 5・6
キーワード	ドイツ語、ドイツ文化、言語運用能力、多文化理解、文法				
授業の目標	読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の基礎的運用能力を身につける。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化を多角的に理解できるようになる。				
学習内容	前期については、集中的に、ハイペースで学習していきます。予習・復習をしっかりと行い、短期間でドイツ語の基礎を身につけることを目指します。教科書の各課は、大きく「メイン・ダイアログ」「文法」「練習」の 3 つの部分から成ります。原則として毎回 1 課ずつ進め、宿題を課します。授業中には受講生同士のペア練習も行います。折に触れ、さまざまなドイツ事情についても紹介します。なお、本科目は体験型学習科目です。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アルファベット、つづりの読み方と発音</li> <li>2. Lektion 1. やあ、僕はナオキ（動詞の人称変化）</li> <li>3. Lektion 2. あっちの方にあるのが郵便局（名詞の性）</li> <li>4. Lektion 3. 今小説を読んでいるところ（名詞の格変化）</li> <li>5. Lektion 4. お皿とカップとグラスはここよ！（名詞の複数形）</li> <li>6. Lektion 5. 夏休みには何をやるの？（前置詞）</li> <li>7. Lektion 6. これが私の両親（冠詞類）</li> <li>8. まとめと復習（1）：Lektion 1-6, 中間試験（授業時試験）</li> <li>9. Lektion 7. テレビを見てるの？（分離動詞）</li> <li>10. Lektion 8. 4 時にパウルとユーリアと会うことにしてる（再帰動詞）</li> <li>11. Lektion 9. 鍵を見つけれないんだ（話法の助動詞）</li> <li>12. Lektion 10. ここには黒い帽子と小さな人形と古いラジオがあるよ（形容詞の格変化）</li> <li>13. Lektion 11. ハンブルクとミュンヘンではどっちの町の方が大きい？（比較の表現）</li> <li>14. まとめと復習（2）：Lektion 7-12, 次学期の学習へ向けて（オンライン授業回）</li> <li>15. Lektion 12. ティーロには今朝もう会った？（現在完了形）</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>				
受講要件	クラス指定に従って履修してください。				
テキスト	大菌・Schulz・西脇・行重『ドイツ語ベーシック・コース [三訂版]』三修社（2,600 円＋税）				
参考書	独和辞典は必携です。初回の授業で紹介いたします。				
予習・復習について	授業 1 回あたり、1 時間～1 時間半の授業外学習が前提です。				
成績評価の方法・基準	中間試験・期末試験の成績（80%）と平常点（20%）をもとに評価します。平常点は、原則として授業への参加状況により評価します。正当な理由なく 3 分の 1 以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。				
オフィスアワー	金曜日昼休み				
担当教員からのメッセージ	この授業は、「初修外国語（ドイツ語）入門 II」（水曜 5・6 時限、トロスト先生）との組み合わせで開講されています。週 2 回の初修外国語の授業に加えて、人文社会科学部専門科目「専門ドイツ語基礎 I」（金曜 1・2 時限、及川先生）を履修するのもお勧めです。				

授業科目名	生命科学 (Life Science)				
担当教員名	天野 豊己 (AMANO Toyoki)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	総合研究棟 721	
分担教員名					
クラス	人	学期	前期		必修選択区分
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	環境、多様性、細胞、タンパク質、微生物				
授業の目標	生物は多様な環境の中で生育し、様々な形態をもって適応している。植物と微生物を題材として、生物の環境適応の仕組みが理解できる。生物の環境への適応戦略の仕組みを知り、人文、社会、教育学への応用につなげることができるようになる。				
学習内容	この講義では、前半部では主として植物の生態や生理について学ぶ。後半部では微生物の環境中における振る舞いを学ぶ。高校で生物を選択しなかった学生を基準に授業を進める。				
授業計画	<p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 いろいろな生物の住む環境：アリストテレスとヒポクラテス</li> <li>2 日本の動植物：豊かな生物多様性とは</li> <li>3 裸地から森林までの変化：外来種は悪か</li> <li>4 細胞のつくり：水滴の中の異世界</li> <li>5 酵素とタンパク質：意外にしなやか</li> <li>6 細胞がエネルギーを得る仕組み：フォーマットをそろえる</li> <li>7 植物が太陽光からエネルギーを得る仕組み：かみ合う2つの反応</li> <li>8 まとめ（授業の振り返り：オンライン）</li> <li>9 ガイダンス</li> <li>10 微生物とは何か？</li> <li>11 微生物の多様性</li> <li>12 微生物の進化</li> <li>13 微生物と環境</li> <li>14 微生物の利用</li> <li>15 微生物と病気</li> <li>16 まとめ（授業の振り返り：オンライン）</li> </ol> <p>授業担当者：理学部生物科学科 1～8回：天野豊己 9～16回：藤原健智担当教員のスケジュールにより授業の順序が変更になる場合があります。</p>				
受講要件	なし				
テキスト	特に指定しない				
参考書	高校の基礎生物と生物の教科書				
予習・復習について	授業を聞いて疑問に思った点や深く調べたいと思った点については、自ら関連する書にあたるなどして下さい。				
成績評価の方法・基準	授業中に小レポート（1～7回目と9～15回目：各回5点）を課します。また、授業担当者ごとに最終回（8回目と16回目）に最終レポート（15点）を課し、合計で評価します。				
オフィスアワー	訪問前にメールで問い合わせてください。天野宛：amano.toyoki@shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	生物多様性の面白さをできるだけ紹介したいと思います。双方向アンケートを実施していますので、遠慮なく疑問点や意見などを書き込んで下さい。				

授業科目名	地球科学 I (基礎 A) (Geosciences I(Fundamentals A))				
担当教員名	北村 晃寿 (KITAMURA Akihisa)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	共通教育 C 棟 311	
分担教員名					
クラス	理 C B	学期	前期		必修選択区分
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	地球の誕生、生物・人類の進化、地球環境、大量絶滅、気候変動、南海トラフ巨大地震				
授業の目標	地球誕生以降の長大な環境と生命の歴史を学ぶことによって、現在の地球環境・自然・人間社会の成立過程に潜む歴史的背景の重要性を理解できるようになる。これらの知識・見方を用いることで、南海トラフ地震、温暖化、海水準上昇などの自然災害の対策を立案・実施できるようになる。				
学習内容	<p>温暖化、海水準上昇、生物多様性の減少、エネルギー問題などが人類の将来に影を落としている。これらの事象の対策には、人類の歩んできた歴史を知る必要がある。なぜならば、現代社会は歴史の産物であり、その成立過程を理解しないと誤った対策を立案することになるからだ。そこで、この授業では、46 億年前の「地球」の誕生から、生命の発生と進化、地球表層の環境の変遷、生命と環境の相互作用そして人類の歴史を概説する。また、静岡県以南の太平洋沿岸域は、近い将来、南海トラフの大地震の被害を受けることが確実である。この大地震へ備えるためには、過去の地震や津波の実態の理解も必要であるので、本講義で紹介する。</p> <p>配布資料(PDF ファイル)を事前配布します。オンデマンド型授業では動画を事前配布します。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東北地方太平洋沖地震と巨大津波、南海トラフの巨大地震について</li> <li>2. 歴史科学の特徴、化石記録</li> <li>3. 初期地球の環境と生命の起源、初期火星の環境</li> <li>4. 初期生命、錆びる地球と全球凍結 (オンデマンド型授業を第 3 週に配信する)</li> <li>5. 真核生物の出現、多細胞動物の出現、カンブリア紀の生命大爆発の概説</li> <li>6. カンブリア紀の生命大爆発の各論</li> <li>7. 古生代の生物、環境</li> <li>8. 古生代末の大量絶滅、中生代の動物</li> <li>9. 恐竜、中生代の環境</li> <li>10. 中生代末の大量絶滅、新生代の始まり</li> <li>11. 新生代の気候・環境変動、寒冷化の始まり</li> <li>12. 気候変動のメカニズム、氷期-間氷期サイクルの始まり</li> <li>13. 日本列島誕生、人類の進化、氷期-間氷期サイクル</li> <li>14. 最終氷期、完新世の環境変動、近未来</li> <li>15. 静岡県の地質、自然災害</li> <li>16. 期末試験</li> </ol>				
受講要件	なし				
テキスト	なし				
参考書	毎回の授業で PDF 資料を学務情報システムで送信。また、参考にする動画の URL を送信する。				
予習・復習について	毎回の授業で配信する動画・PDF 資料で予習・復習する。				
成績評価の方法・基準	単位を取得するには、オンデマンド型授業を除いた 14 回の授業に内の 11 回以上に出席する必要があります。成績は期末試験 (100%) で評価します。授業中にホームページ閲覧、動画・音楽視聴・配信、ゲーム、通信・通話などを行っていた場合には、成績評価に影響することがあります。授業中に私語を行っていたり、断りもなく出入りした場合にも、成績評価に影響することがあります。				
オフィスアワー	相談内容・日時に関しては、事前にメールで連絡下さい(アドレス : kitamura.akhisa@shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ	歴史科学の重要性を理解して欲しい。時間厳守。				

授業科目名	地球・宇宙システム (System of Earth & Universe)				
担当教員名	内山 秀樹 (UCHIYAMA Hideki)		所属等	学術院教育学領域	
			研究室	教育学部C棟405	
分担教員名					
クラス	理科	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	月5・6
キーワード	天文学、天文学史、太陽系、天体に関する基礎物理、銀河、恒星の一生（ブラックホール等を含む）、宇宙論				
授業の目標	小・中学校および高校地学で扱う天文学の教科内容を指導するために、その基礎的概念や学問体系を身につける。また、先人達がどのように宇宙を捉えて来たのかを知り、現在の人類が科学的な実証の上にとどり着いている最新の宇宙観を理解する。				
学習内容	基礎的な天文学を講義する。最初に、どのような観測・考察に基づき、先人たちが初期の天動説から地動説に辿り着いたのかを学ぶ。合わせて小・中学校で扱う、基本的な天体の運行を理解する。次に基礎物理に基づき、天体の成り立ちを理解する。最後に、現在の科学の立場から見た、宇宙の起源と未来について学ぶ。				
授業計画	<p>以下の内容で進めるが、必要に応じて順序や内容は適宜入れ替える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コペルニクス以前の宇宙～我々から見た星々の運行</li> <li>2 コペルニクスの転回～天動説と地動説</li> <li>3 太陽系の天体～太陽・地球・月・惑星 I：太陽～地球</li> <li>4 太陽系の天体～太陽・地球・月・惑星 II：地球以遠</li> <li>5 恒星からの光を読み解く～観測的天文学</li> <li>6 太陽系を越えて～宇宙の階層構造</li> <li>7 恒星の一生</li> <li>8 宇宙の起源と未来（オンデマンド型授業）</li> </ol> <p>講義資料を公開するので、そちらを教科書に代える。 ただし、参考書の欄にある書籍 A～C を以下の様に活用することを勧める。 A. 「基礎地学」の教科書であった本書と各回の授業内容の対応関係を授業内で示すので、該当箇所を予復習で読むことを強く勧める。 B. 本書の内容に沿って講義を行うので、読むと理解の助けになる。 C. 本講義で扱われている内容が綺麗なカラーの図版で掲載されている。必須ではないが副読本として勧める。</p>				
受講要件	なし。ただし、高校程度の物理学を授業中に解説しつつ扱うため、事前に「基礎物理学」「物理数学」「物理演習 I」を受講していると内容の理解が容易になる。				
テキスト	講義資料を公開するので、そちらを教科書に代える。				
参考書	<p>A. 「もういちど読む数研の高校地学」、数研出版編集部、数研出版、2014年、ISBN-13: 978-4410139598 B. 「ケンブリッジ物理学コース 宇宙の科学 天文学入門」 ブライアン・ミルナー 著・坪田幸政 訳、丸善出版、2012年、ISBN-13: 978-4621085363 C. 「天文学の図鑑（まなびのずかん）」池田 圭一 著・縣 秀彦 監修、技術評論社、2015年、ISBN-13: 978-4774172934</p>				
予習・復習について	公開される授業資料を使って、必ず復習を行うこと。また、参考書 A の該当箇所を予復習で読むことを強く勧める。				
成績評価の方法・基準	授業中の課題（30%）と中間・期末のレポート問題（70%）で評価する。「授業の目標」で掲げた内容を他者（特に生徒）に正しく分かりやすく説明できる段階までに理解できているかを成績評価の基準とする。				
オフィスアワー	訪問希望日時、質問事項等を <a href="mailto:uchiyama.hideki@shizuoka.ac.jp">uchiyama.hideki@shizuoka.ac.jp</a> へメールください。または、授業毎の課題のコメント欄に質問を記入してください。歓迎します。				
担当教員からのメッセージ	本授業に関連して（好きなもので良いので）宇宙に関する本を読んで下さい。1冊の本をきちんと読み通すことは自信になり、今後発展的な内容を学ぶ時や必要があって天文学を学び直す時、きっと役に立つ足がかりになります。授業を含め、理解しにくい点、実感しにくい点があったら、授業中やオフィスアワーに、どんどん質問して下さい。				



授業科目名	生化学 (Biochemistry)				
担当教員名	天野 豊己 (AMANO Toyoki)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	総合研究棟 721	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分 必修
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	タンパク質、アミノ酸、代謝				
授業の目標	生体を構成する分子の構造と機能が分かるようになり、それらがどのように結びついているのかが理解できるようにする。				
学習内容	生体内における酵素反応の分子機構について、タンパク質の構造と機能の両面から解説する。またタンパク質科学の実験方法についても解説する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生化学とは</li> <li>2 生体物質</li> <li>3 アミノ酸の種類</li> <li>4 アミノ酸の物理化学的性質</li> <li>5 タンパク質の構造</li> <li>6 三次構造、四次構造</li> <li>7 酵素</li> <li>8 酵素反応</li> <li>9 <math>k_m</math> と <math>V_{max}</math> の使用法</li> <li>10 速度論における阻害剤の効果</li> <li>11 精製法の概要</li> <li>12 細胞破碎と遠心分離</li> <li>13 クロマトグラフィーの原理</li> <li>14 クロマトグラフィーの組み合わせ方 (オンデマンド型によるオンライン授業)</li> <li>15 電気泳動</li> </ol>				
受講要件	特になし				
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	ヴォート基礎生化学 第5版(東京化学同人、ISBN 9784807909254)、 ストライヤー生化学 (第8版) (東京化学同人、ISBN 9784807909292)、 細胞の分子生物学 第6版 (Newton Press、ISBN 9784315520620)、 など。				
予習・復習について	復習を中心にしっかりと学習を進めて欲しい。				
成績評価の方法・基準	特別な事情のない限り 2/3 以上の出席を評価対象とし、成績評価は期末試験で判断する。				
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。不在に備えて amano.toyoki@shizuoka.ac.jp に連絡が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	生物科学の基礎になる科目です。しっかりと理解をしてください。				

授業科目名	こころの深層 (The Depth of Mind)				
担当教員名	太田 裕一 (OTA Yuichi)		所属等	保健センター	
			研究室	工学部 7号館 3 F	
分担教員名					
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	アニメーション、物語分析、象徴解釈、臨床心理学、精神分析、民俗学、映像分析、歴史学、哲学、宗教学				
授業の目標	講師に与えられた問題に対する解答に早く到達するのではなく、受講者が自分自身で「問題」そのものを発見することができるようになること、講義の目的といった自明に思えることを疑う批判精神を身につけることを目指します。				
学習内容	主にアニメーションを題材にし、製作者の意図は一旦保留にし、そこに表現されている物語構造、象徴表現などを、臨床心理学、民俗学、社会学などの新たな角度から解釈し直します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>01. 「アルプスの少女ハイジ」のフラクタル構造</li> <li>02. 「となりのトトロ」におけるファンタジー</li> <li>03. 「パンダコパンダ」と異類婚</li> <li>04. 「千と千尋の神隠し」と異界</li> <li>05. 「おジャ魔女どれみ」と少女の成長</li> <li>06. 「おジャ魔女どれみ」と情緒的恒常性の確立</li> <li>07. 「秒速5センチメートル」における幻想の北関東</li> <li>08. 「ほしのこえ」と世界の移行</li> <li>09. 「デジタルモンスター ぼくらのウォーゲーム」における隠された主題</li> <li>10. 「君たちはどう生きるか」と神話世界</li> <li>11. 「すずめの戸締まり」とオムライス問題</li> <li>12. 「この世界の片隅に」と婚姻儀礼</li> <li>13. 「君の名は。」と解離／否認</li> <li>14. 受講者と講師の解釈バトル(講師未見のアニメで考察バトルを行います)</li> <li>15. 「言の葉の庭」における誘惑のモチーフ (オンデマンド)</li> </ol> <p>タイトルはあくまで仮題です。旬なアニメを取り入れたり、皆さんの毎回のレポートの希望を取りいれたりしながら適宜、変更します。</p>				
受講要件	すべての講義に出席し、毎回出されるミニレポートを提出する意欲のある人。つねに新たな視点を模索しようとする人。				
テキスト	特になし。				
参考書	久能徹・太田裕一「史上最強図解 よくわかるフロイトの精神分析」(ナツメ社)				
予習・復習について	アニメは講義で視聴します。講義で一度見ただけでは細部まではわからないかもしれませんが、それはレポートに記載してくれれば考慮します。著作権の関係で動画を配信したりすることはできないので、申し訳ないですが再度視聴したい人はレンタル等を利用してください。				
成績評価の方法・基準	Teams のチャット(you999@cii.shizuoka.ac.jp)で毎回ミニレポート提出(400字以上)、学期末の最終レポート(2000字以上)、講義への積極的な参加姿勢で評価します。評価におけるミニレポートと最終レポートの割合は基本は50%:50%です。最終レポートが提出できるのはミニレポートを10回以上提出している人に限ります(遅延提出可です)。イラスト、自作音楽、歌ってみた等、動画(講義紹介、MAD、MMD、手書きアニメ、ゆっくり実況等)の投稿、コスプレ(許可なくネットに投稿禁止)、講義の雑誌、ネットラジオ等への投稿(「ラブライブ! μ's 広報部」「sprite/fairys RADIO 緒方恵美と妖精の国」)、Twitterでの実況推奨(最多投稿には副賞あり)。投稿は講義放映を前提とします。				
オフィスアワー	質問等は Microsoft Teams のチャットで随時受け付けます。				
担当教員からのメッセージ	講義には Twitter のハッシュタグ(#kokoronos)を設定しネット実況を奨励します。ねとらぼからの転載で Yahoo!ニュースに掲載されました。アニソン、ボカロ曲のリクエストを募って講義中に講師が弾き語りを行います。新鮮な視点を提供してくれる受講生の方をお待ちしています。				

授業科目名	生物と環境 (Life and the Environment)				
担当教員名	戸田 三津夫 (TODA Mitsuo)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	工学部 4 号館 406	
分担教員名	佐野 吉彦、佐藤 一憲、宮崎 さおり				
クラス	情工 1	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	生命誕生と進化、気候変動と大絶滅、生物多様性と社会				
授業の目標	ヒトは膨大な数の生物種の中の一つにすぎない。科学研究の成果から、「地球のすべての生命が起源を同じくする兄弟である」と考えられる。また、ヒトはヒトだけで生存できない。ヒトの個体もヒト細胞だけでは成立しない。実際にはヒトの体は微生物の方が多くいる多様なバイオーム（生物群系）である。また、害が強調されやすいウイルスもヒトの進化に必要だった。進化は行きつ戻りつし、ひたすら分化する一方方向のものではない。したがって、ヒト自身を理解するためにも生物や生命を理解する必要がある。この講義を通して、ヒトとしての自分を客観的に見て、自らが世界の中でどのような存在であるか思いを馳せる能力を獲得することを目指す。				
学習内容	地球史、生命史、人類史を通して、生命が辿ってきた道を知る。たった一種の生物であるヒトがどのように登場し、現在の繁栄を手にしたか、また、ヒトが何を行ってきたかを知る。さらに、ヒトの行動を再評価して未来への指針を考える。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地球と生命の誕生:生命とはなにか、生物とはなにか? バクテリアと藻類の時代:小さきものたちが環境に適応し、環境を改変した (戸田)</li> <li>2 カンブリア爆発、大絶滅、生物の上陸 (戸田)</li> <li>3 地球の営みと長期気候変動、スノーボールアース (戸田)</li> <li>4 古生物の時代、恐竜の時代から哺乳類の時代へ (戸田)</li> <li>5 生物の絶滅と分化、淘汰と進化 (宮崎)</li> <li>6 ヒトの関与:農業拡大による生態系の攪乱、人新世の始まり (戸田)</li> <li>7 ヒトの関与:生物資源の利用、生物の改良と家畜化 (戸田)</li> <li>8 ヒトの関与:ヒト文化の中の生物 (戸田)</li> <li>9 ヒトの関与:生物とのせめぎ合い:直接的な脅威、害虫や感染症との戦い (戸田)</li> <li>10 ヒトの関与:近代以降の攪乱:過大な捕獲圧、環境破壊、侵略的外来生物 (戸田)</li> <li>11 ヒトの関与:近代現代の生物絶滅、生物多様性、気候変動、プラスチック利用がもたらす問題 (戸田)</li> <li>12 生態系を数学で解く(感染症の数理モデル) (佐藤)</li> <li>13 生態系を数学で解く(生態学の数理モデル) (佐藤)</li> <li>14 生物を利用した新たな産業 (佐野)</li> <li>15 元素の誕生とエネルギー:宇宙史の中での生物とヒト (戸田)</li> </ol> <p>※全回対面授業の予定です。</p>				
受講要件	地球史、生命史、人類史、環境問題に深い関心を持つこと。				
テキスト	特に定めません。あらゆる資料、情報を使ってください。				
参考書	おびただしい数の参考資料がどんどん出ているので挙げきれません。静大附属図書館、浜松市図書館、書店、その他の情報源から適宜情報を得てください。				
予習・復習について	毎日の生活(衣食住)が予習・復習の契機となります。生命、生物、生態系、生物を取りまく環境を意識して生活しましょう。				
成績評価の方法・基準	期末試験は行いません。期末レポート(60%)、講義ごとの提出物など(40%)で評価します。課題の内容を評価しますので、全出席+レポート提出だけでは高評価とはなりません。レポートには【前提(適切な問題提起と目的)、材料(データ)、的を得た考察、妥当な参考資料リスト】が必要です。				
オフィスアワー	特に定めません。メールで直接あるいはアポイントをとってから各教員のもとに来て下さい。				
担当教員からのメッセージ	この講義を通じて、自分がこの世に存在すること、祖先と自分と子孫、地球環境などに思いを馳せることができるようになってほしいと思います。新型コロナウイルス感染症予防対策の状況により、対面授業ができない可能性もあります。毎回の講義の実施方法などについては登録者に適宜連絡します。				

授業科目名	浜松市の交通と観光を考える (Thinking about Hamamatsu City from Public Transit and Tourism)				
担当教員名	戸田 三津夫 (TODA Mitsuo)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	工学部 4 号館 406	
分担教員名	武田 和宏、西原 純				
クラス	情工	学期	前期		必修選択区分
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	人口減少、コンパクトシティ、モビリティ革命、脱炭素社会、地方創生、観光振興、浜名湖、CASE、SDGs				
授業の目標	少子高齢化は少なくとも今後 20 年は止められない。人口減少、脱炭素が叫ばれる中 CO2 排出実質ゼロ、内燃エンジンの使用制限など、浜松市をとりまく環境は激変する。これを乗り越えるには何が必要か。この講義では、政令指定都市となった浜松市が、行政の効率化を実現し自動車に頼らなくてもよい社会を実現するためにコンパクトシティと公共交通の拡充、観光振興を目指すビジョンを考える。有望な選択肢として、世界各都市で導入が進む LRT や運輸連合があることを理解する。講義の最終回までに、自由な発想で今後の浜松や日本の未来を創る提案を考えるとともに活発に議論し観光体験することを通して、浜松の産業とインフラについて考える。				
学習内容	浜松をとりまくさまざまな状況:産業や交通、観光の歴史、技術開発、エネルギー、経済、環境に関する事柄を学ぶ。それを踏まえて将来の浜松市を予測し、想定される問題点をいかに解決してゆくべきかを考え、交通と観光を軸とした都市デザインを個々の受講者が自ら考え、改善案を発表しあい意見交換する。				
授業計画	<p>回 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義内容とスケジュールの紹介、日本と浜松の交通史、浜松の発展史 (戸田)</li> <li>2 日本と浜松市の現状と将来予測、JR 東海超電導リニアについて (戸田)</li> <li>3 動力の歴史と交通(人力、風、家畜、エンジン、モータ)、社会的共通資本としての交通 (戸田)</li> <li>4 交通がもたらす災い:社会的費用:交通事故、環境被害 (武田)</li> <li>5 浜松の交通政策・遠州鉄道バスのサイクルアンドバスライドの取り組み (西原)</li> <li>6 浜松・浜名湖の観光 (戸田)</li> <li>7 世界で活躍する LRT:その機能と可能性 (栗田)</li> <li>8 浜松型次世代交通システムの提案 (内田)</li> <li>9 浜松型次世代交通システムのデザイン (河岡)</li> <li>10 浜松と日本の未来を語る (座学最終回:受講生によるアイデア、プランの発表と討論)</li> <li>11 10 回目終了前後の休日に、受講者の希望を反映した浜松周辺の観光ツアー(日帰り)を残り講義 5 回分(7.5 時間)として実施します。早めに調整しますが、6 月後半から 7 月上旬の土日の予定をなるべく空けておいてください。</li> <li>12</li> <li>13</li> <li>14</li> <li>15</li> </ol>				
受講要件	浜松市政や地域振興に問題意識のある諸君の受講を歓迎します。都市の運営や計画に関心のある人、地元公務員志望、乗り物だ いすき、自動車産業や自転車に関心のある人も歓迎。				
テキスト	特に定めません。				
参考書	テーマが多岐にわたるため、各自で探して下さい。静大附属図書館にも交通や都市運営の関連書籍があります。浜松市城北図書館、特に浜松市中央図書館調査支援室は一度は利用してみてください。各種統計情報なども役立ちます。				
予習・復習について	日常生活の中で問題意識を持って下さい。自転車交通、高齢者の運転、インフラの維持、新東名道、リニア中央新幹線、東南海地震、富士山噴火、地方財政逼迫、インフラ老朽化などさまざまなことが関係します。ツアー企画の計画立案に備えて浜松の観光に関する下調べもしておいてください。				
成績評価の方法・基準	期末試験は行いません。各自の最終提案とツアー報告をまとめた期末レポート(80%)、講義ごとの提出物など(20%)で評価します。				
オフィスアワー	特に定めません。メールで直接あるいはアポイントをとってから来て下さい。				
担当教員からのメッセージ	来るべき社会は若者にとって楽観できないものなる可能性があります。生産人口が減り若者の政治的発言力も相対的に弱まります。日本と浜松の将来を的確にとらえ、最善の道を考え実現するきっかけとなるべく授業を行います。2023 年に LRT を新規整備した宇都宮市は、住んでみたい街ランキングが急上昇し全国的に注目されています。				

授業科目名	工学基礎化学 I (Basic Chemistry for Engineers I)				
担当教員名	植田 一正 (UEDA Kazumasa)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	工学部 6 号館 5 階 507 室 (不在時は 511 室も)	
分担教員名					
クラス	C	学期	前期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	原子の構造、元素の周期律、化学結合と分子の構造、固体の化学				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりについて、自ら考える力の基礎を養う。そのために、まず原子の構造を理解し、そこでの電子の振る舞いが元素の性質、化学結合、分子の構造、性質、反応性に重要な関わりがあることを学ぶ。				
学習内容	化学の基礎、化学的なものの考え方は、いずれの学科においても、素材や材料を扱う上で重要となるので、比較的やさしい理論的な取り扱いに基づいて講義する。その上で、実際の化学材料あるいは電子材料等に適用できる力を養う。				
授業計画	以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。講義形態を含むより詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめを実施しないこともある。また、随時演習を行う。 1 原子の構造と電子配置 (1) 原子と分子 2 原子の構造と電子配置 (2) 物質質量、電子の軌道 3 元素の周期性と属性 (1) 周期律 4 元素の周期性と属性 (2) 原子の大きさ、同位体 5 量子力学入門 (1) 光の粒子性と波動性、物質波 6 量子力学入門 (2) 波動関数、量子数 (オンデマンド在宅授業) 7 中間のまとめ 8 共有結合と配位結合 (1) 共有結合と電子式 9 共有結合と配位結合 (2) 分子軌道、配位結合 10 共有結合分子の構造 (1) 混成軌道 11 共有結合分子の構造 (2) 共鳴、共役系 12 イオン結合と水素結合 (1) イオン結合 13 イオン結合と水素結合 (2) 電気陰性度、水素結合 14 固体の化学 (1) 結晶構造、イオン結晶 15 固体の化学 (2) 金属結合、半導体				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著(培風館) ISBN978-4-563-04607-1 「演習 基礎から学ぶ大学の化学」梅本宏信編(培風館) ISBN 978-4-563-04630-9				
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著(岩波書店) シリーズ 1 ISBN978-4-000-079815-6 シリーズ 2 ISBN 978-4-000-07982-2 ; 一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著(化学同人) ISBN978-4-759-81020-2 ; 化学—基本の考え方を中心に—、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳(東京化学同人) ISBN 978-4-807-90334-4				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。これによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。なお、非常勤担当のクラスについては常勤教員(植田、宮林、野口)が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				



# 8 払込取扱票 記入例

払込取扱票													
00		口座記号・番号はお間違えのないよう記入してください。											
008404		98725		金額				〇〇〇〇〇					
納入者名		静岡大学				料金		備考					
通信用・ご依頼人		市民開放授業				9,700円 × □ 件= ●●●●●円		科目番号 ■■, ■■, ■■					
		6,900円 × □ 件= ●●●●●円				科目番号 ■■							
		合計 〇〇,〇〇〇円											
		△△△ - △△△△											
		△△△△△ △△△△△△△△											
		△ △ △ △ △											
		△△△ - △△△ - △△△△											
		日 期											
		印											

振替払込請求書兼受領証													
008404		98725		金額				〇〇〇〇〇					
納入者名		静岡大学				料金		備考					
ご依頼人		△△△ △△△△											
科目		日 附 印											
備考													

(注意) ①赤文字の箇所にご記入ください。

②各授業の科目番号および受講料は、「市民開放授業科目一覧」(P21)に記載されています。

## ■記入上の注意

- ◇受講する科目数を□に記入し、受講料と掛け合わせた金額を●部分にご記入ください。
- ◇「市民開放授業科目一覧」を参考に、受講する科目の科目番号(左列)を■部分にご記入ください。複数ある場合は、「,」「|」「」などで区切ってください。
- ◇算出した合計金額を○部分にご記入ください(3箇所)。計算が間違っていないか、必ずご確認ください。
- ◇△部分にご自分の郵便番号、住所、お名前をご記入ください。記入がないと、どなたからの入金か分かりませんので、忘れずにご記入をお願いいたします。
- ◇振替払込請求書兼受領証は、受講証が届くまでなくさないように保管してください。





# 2024年度（前学期）静岡大学市民開放授業 受講申込書

国立大学法人 静岡大学長 殿

※裏面の注意事項を必ず確認し、身分証明の写しを貼付すること →

住 所	〒		—
ふ り が な			性別(どちらかに○) 男 ・ 女
氏 名			印
生 年 月 日	(西暦)	年 月 日	( 歳)
電 話	(携帯)	(自宅)	
E - m a i l	(フリガナ)		
メールアドレスをお持ちの方は必ずご記入ください。未記入の場合はメールが届きません。	(メールアドレス)		
	※英数字等区別しにくいものは丁寧に書きください(例:「0」(ゼロ)と「o」(オー)、「1」(イチ)と「l」(エル)など)。 ※休講等の連絡をメールで送信しますが、他に学生向け情報も配信されますので、あらかじめご了承ください。 ※携帯メールの方は大学からのメールが受信できるように設定をしてください(発信アドレス:gakujo@adb.shizuoka.ac.jp)		
職 業	会社員・自営業・無職・主婦・学生・その他 ( )		
最 終 受 講 歴	2023年度後学期 ・ それ以前 ・ 初めて (あてはまるもの1つに○)		
静 大 eduroam ゲスト用アカウント発行	要 ・ 不要 ※キャンパス内での無線LAN利用には静大eduroamゲスト用アカウントによる接続設定が必要です。 無線LANの利用を希望する方は 要 に○をおつけください。		

※承認印をもらう前に、市民開放授業科目一覧に掲載されている科目番号と受講科目を正確に記入してください。

科目番号	受講科目	担当教員氏名	授業曜日・時限	担当教員承認日	担当教員承認印 (またはサイン)
			曜日 時限	/	
			曜日 時限	/	
			曜日 時限	/	
			曜日 時限	/	
			曜日 時限	/	

上記授業科目を受講したいので、裏面の注意事項に同意のうえで、申し込みます。

以下大学側記入欄

受講の登録受付日	講習料の納付日	受講証の交付	
		(受講証番号)	(交付日)
		(学籍番号)	

(注) 受講生の個人情報に関しては、細心の注意を払い、市民開放授業の申込みの確認、市民開放授業に関する連絡、今後の大学の市民向け事業のご案内に利用させていただきます。

## 注意事項

市民開放授業の受講生は、受講にあたり、以下のことを遵守してください。  
また、このことにご同意いただける場合のみ、受講をお申し込みください。

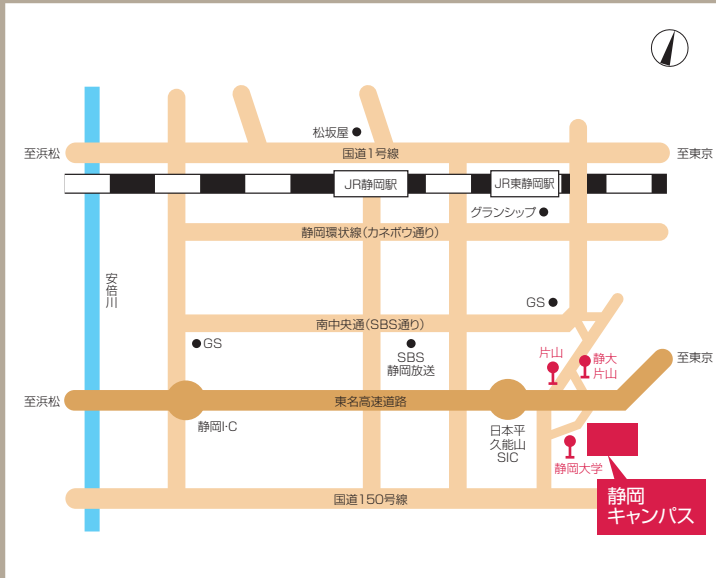
- 一、 受講にあたり、静岡大学が行う教育、研究活動、及び事務運営に支障が及ぶことがないようにするとともに、教職員の指示に従う。
- 一、 前項に反し、受講生としてふさわしくない言動及び静岡大学の秩序を乱す行為があった場合は、受講を停止されても甘受する。その場合、納入した講習料の返還を要求しない。
- 一、 静岡大学の施設、設備等を故意又は不注意により破損したときは、その損害を賠償する。

以上

身分証明貼付欄（氏名、現住所が確認できるものであること）

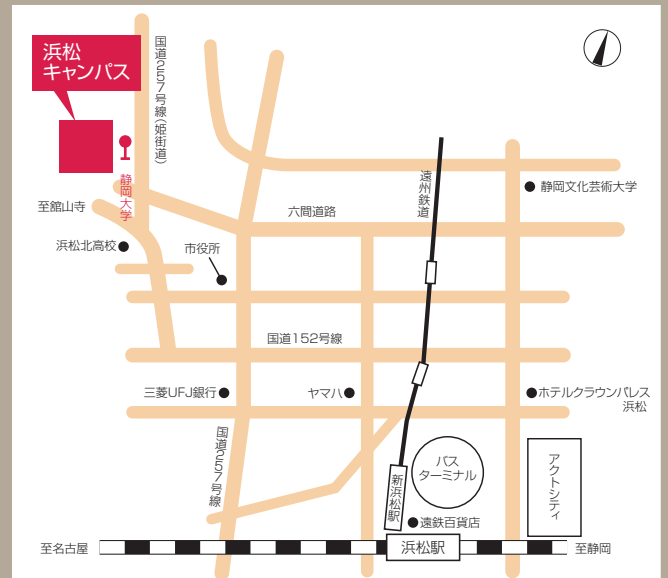
## ■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部・グローバル共創科学部・地域創造学環  
〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836

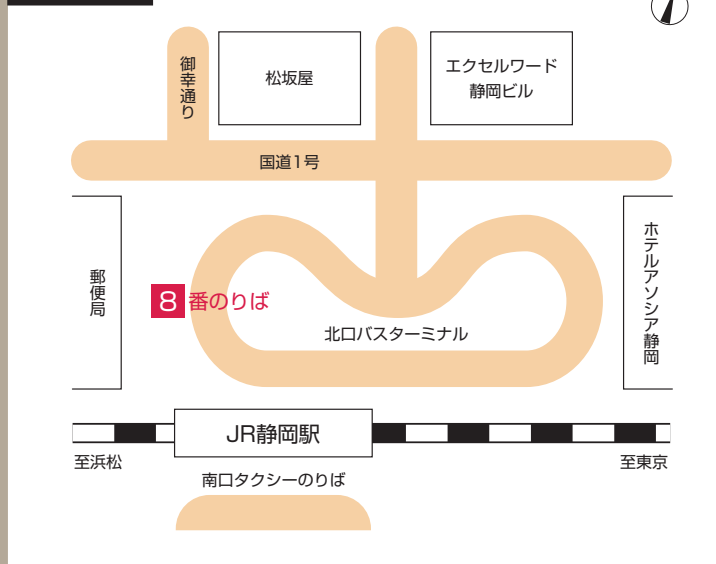


## ■浜松キャンパス

情報学部・工学部  
〒432-8011 静岡県浜松市中央区城北 3-5-1

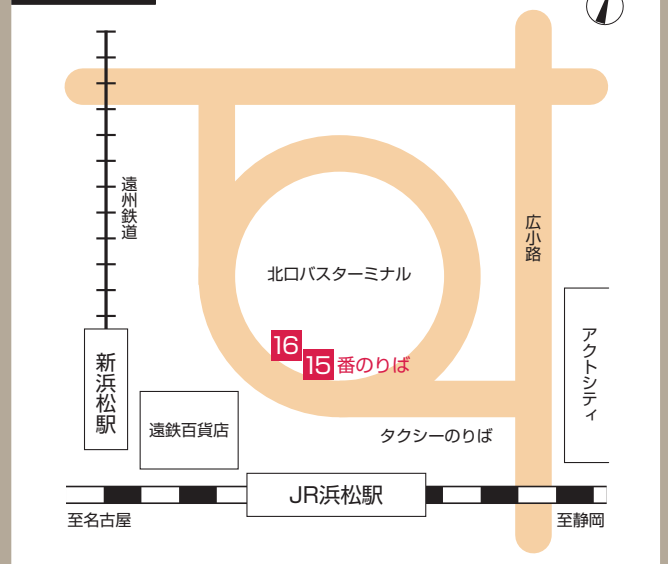


### バス停案内図



1. JR静岡駅北口すぐつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5~7本運行)。\*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

### バス停案内図



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。

## 静岡大学地域創造教育センター Education Center for Regional Development

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00(4/11~4/24のみ、9:30~16:30)] FAX: 054-238-4295

E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp <https://www.Lc.shizuoka.ac.jp/>